

地歴公民 (日史・世史・地理・政経・倫理) 北海道大学 総合入試【文系】、学部入試【文】

<全体分析>

試験時間 90分

解答形式

記述・論述併用。

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

大問は例年通り 3 題だが、設問総数は昨年の 48 から 45 へとやや減少した。このうち記述問題は総数 33 で、昨年の 34 に比べてやや減少した。大半はオーソドックスな問題で占められ、とくに難問・奇問といえるような問題はほとんどみられない。一方、論述問題は総数が 12 で、昨年に比べてやや減少した。例年通り、すべて字数不定の問題で、解答用紙をみると、1 行～4 行 (1 行の字数の目安は 30～35 字と考えればよい) で答えさせるようになっている。大部分は基礎的な知識でじゅうぶんに答えられるが、一部に意表を突くような問題、深い知識を必要とする問題、時系列をふまえて論理的な解答を要求する問題もみられる。以上の諸点をふまえ、難易度は「変化なし」とした。

出題の特徴や昨年との変更点

記述問題の質問内容は人物、都市、王朝・国家、民族、事柄・事件、作品、思想・概念など多岐にわたる。また、論述問題の内容形式も事柄・事件の原因・経緯・結果、専門用語の説明、国家間関係、思想の特徴や影響、改革・革命の内容、交易路・交通網など多岐にわたるが、今年は「事柄・事件の経緯」を問う論述問題が複数出題されているところが特徴といえよう。

その他トピックス

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	記述・論述	イタリア史	問 1 は「経緯」について何を書けばよいのか、受験生は悩むのではないかと。問 3 (イ) はペルシア湾ルートから紅海ルートへ変化したという事実を知っている受験生があまりいないのではないかと。問 4 の「カトー＝カンブレジ条約」はやや難。問 5 (イ) は「政府の名称を答えなさい」という質問がわかりづらい。	やや難
2	記述・論述	中国の南北の統合と分裂	問 1 (イ) の「開封」だが、正確には「運河と黄河の交差点」には位置していない。(ウ) は問い方があいまいなので答えにくい。問 7 は「政権の勢力基盤」という言葉の意味がわかりづらい。	やや難
3	記述・論述	世界史における革命	問 1 (エ) のホップズは倫理の問題かと錯覚するような問いで、とまどった受験生も多いのではないかと。問 2 は細かい知識を必要とする問題で、難しい。問 5 (イ) のアイゼンハワーは難。	やや難

※難易度は 5 段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・ 論述対策：ふだんから 30 字～120 字程度の論述問題をくりかえし練習しておくこと。例年、文化史の分野から思想や宗教関連の出題がみられるので注意すること。ある歴史的事実の背景、経過、結果、影響、意義など因果関係を説明させる問題がかならず出題されるので、そのようなタイプの問題に慣れておくこと。基本的な用語や概念を説明させる問題もかならず出題されるので、しっかり対策しておくこと。
- ・ 地域対策：イスラーム史、アフリカ史、南北アメリカ史からの出題が多いので、苦手にせず、よく対策しておくこと。中国史は毎年かならず出題されるので、対策を怠らないようにすること。また、今年はお題されなかったが、清代はこれまで頻繁に出題されているので注意すること。
- ・ その他：専門用語の漢字で覚えていないものがあれば、正確に書けるようになるまで練習すること。第二次世界大戦以後の戦後史についても、重要テーマを中心に基礎的事項を整理して記憶しておくこと。